

2030年までにわたしたちにできることを考えよう!

世界を変える

エス・ディー・ジーズ

SDGs



コピーして使える
「SDGsクイズ」
で、理解が深まる!
各教科との関連
が、よくわかる!

監修 小林 亮

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を達成しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

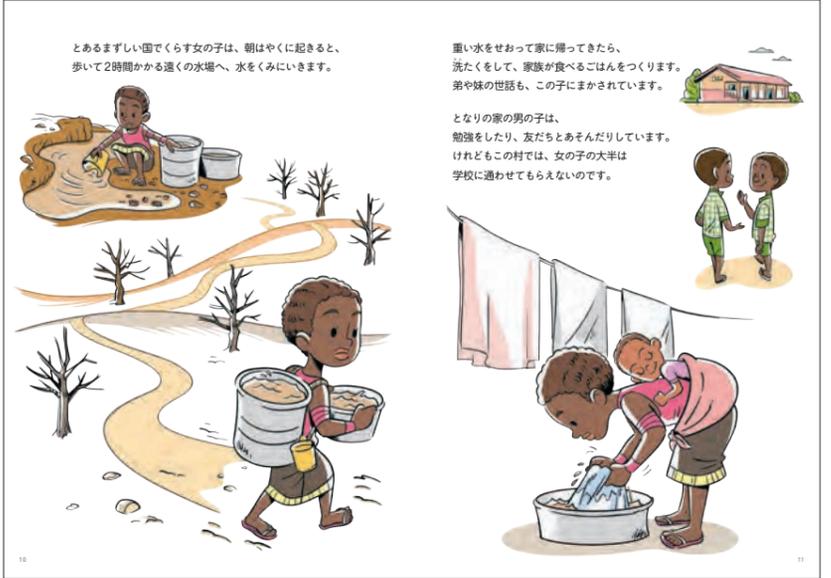


この本のつかい方

この本では、SDGsの取り組みについて紹介しています。SDGsがつくられた背景をものごととして読むことができる「SDGsを知のお話」や、SDGsの17個の目標にまつわる「SDGsクイズ」などをとおして、楽しく学ぶことができるつくりになっています。

SDGsを知のお話

「なぜいま、SDGsが必要なのか」ということを、絵本のかたちで読むことで、理解に近づきます。低学年の児童への読み聞かせにも使用できます。



SDGsの全体像をとらえよう

SDGsの成り立ちや、17個の目標を世界のみなが理解して行動できるようにと定めた決まりごと、SDGsの理念などについて、知ることができます。

SDGsの全体像をとらえよう. Includes a list of 17 SDGs and a table of MDGs (Millennium Development Goals) with their corresponding SDGs.

17個の目標の解説

SDGsには17個の目標があります。この本では、それぞれの目標を3つの見開きで解説しています。

なぜ この目標が必要なの？

目標がかかげられた背景について説明しています。

どんな 取り組みが必要なの？

目標を達成するために、世界が取り組むべき行動をまとめています。

SDGsクイズ

目標に関連する内容のクイズを出題しています。クイズの形式は、線つなぎであったり、選択問題であったりさまざまです。

目標のマーク

目標の内容を象徴する絵がかかれたマーク(英語版)です。

Target 4: Quality Education. Includes a table of global education indicators and a comparison of Japan's performance against the target.

キミは知ってる？

世界と日本でいま起っている、さまざまな社会問題について取りあげています。また、「考えよう」では、さらにくわしく話題をほりさげています。

World Education Rankings. Table showing literacy and English proficiency rates for various countries, with Japan's performance highlighted.

対応教科

クイズの内容が、どの教科に対応しているかがひと目でわかります。

SDGsクイズの答え

前のページのクイズの解答をのせています。

教えて！ 小林先生

クイズの解答に関する補足を中心に、世界の現状やその目標がめざす社会について、監修の小林先生が解説しています。

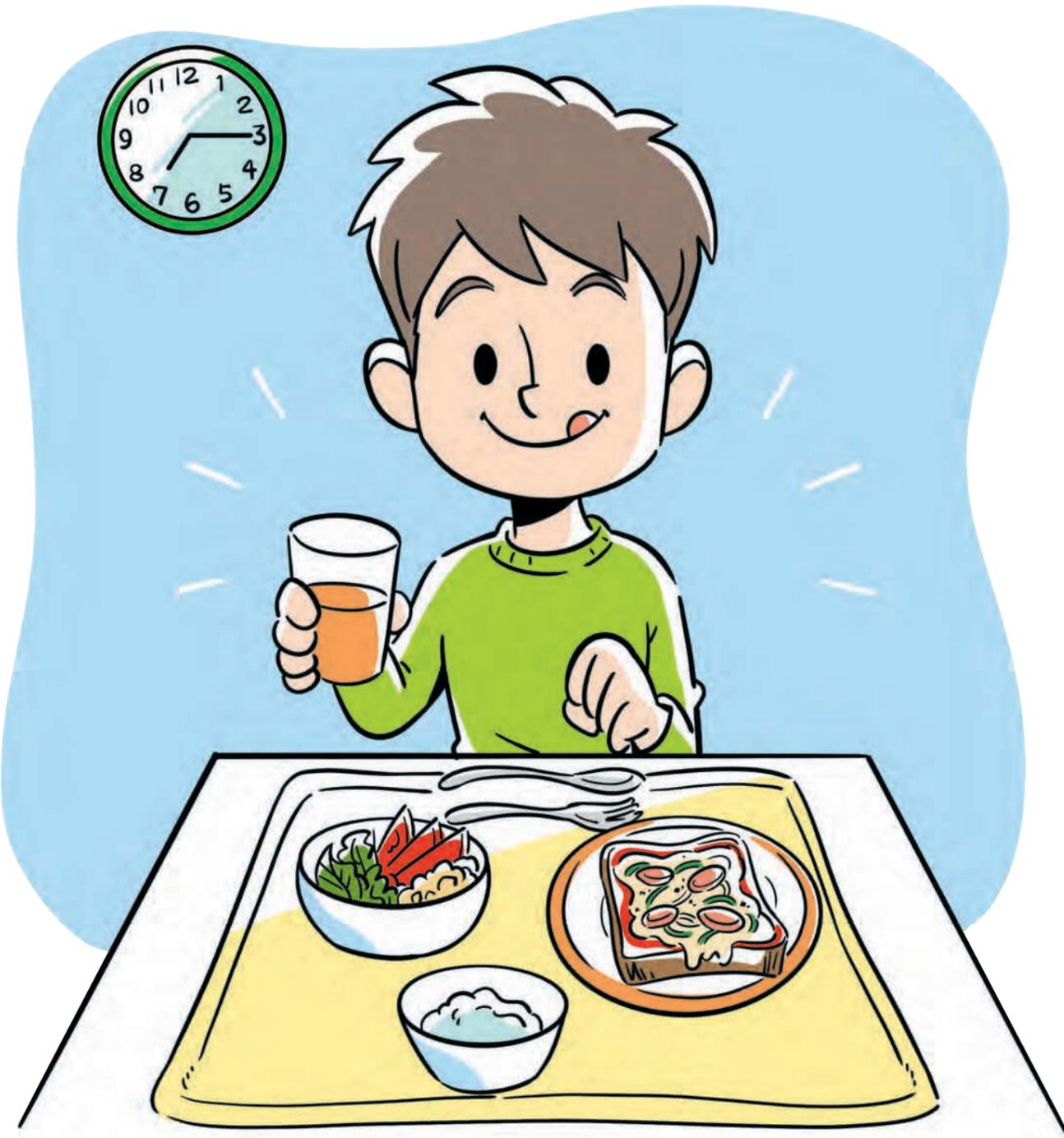
クイズのページは、学校や家庭で、児童や生徒がSDGsを学習する副教材として使用する場合にかぎり、コピーをみとめています。

キミならどう考える？

目標のテーマに関する質問を3つ投げかけています。「わたしの考えは…」では返事の一例をのせていますが、正解はありません。自分の意見を考えるきっかけにしましょう。

SDGsを知るお話

日本でくらすある子どもは、
毎日7時に起きて、朝ごはんを食べます。

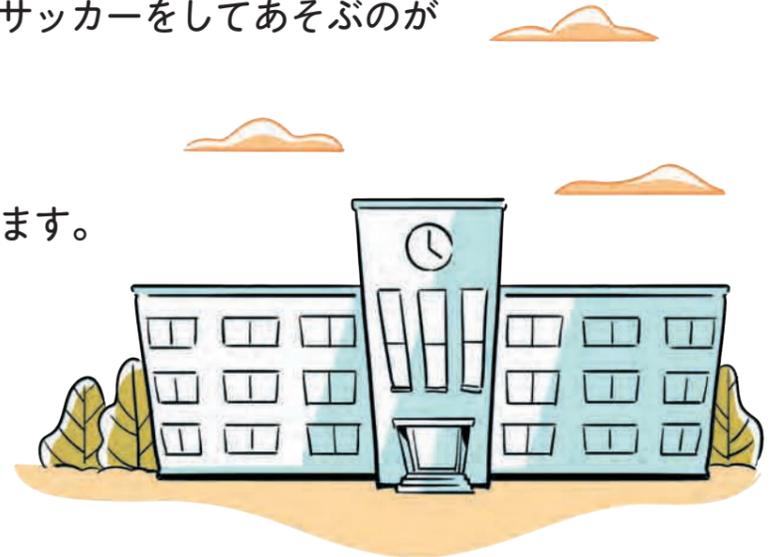


朝ごはんを食べたら、学校へ行く時間です。
学校では、新しい漢字やむずかしい計算を習ったり、
ときどき、テストをする日もあります。
お昼には、クラスのみんなで給食を食べます。

授業が終わったら、友だちとサッカーをしてあそぶのが
この子の楽しみです。

家に帰ったら、
宿題をして、夜ごはんを食べます。

1日の最後には、
お風呂に入って、
ふとんのなかでねむります。





世界がかかえる人口問題をとおして 不平等や格差について考えよう

上の国名と、下の説明文を線でつないでください。



世界には、人口が増加している国と減少している国があります。人口が増えている国ではその増加率がいちじるしく、世界の人口は、今後30年のあいだに、いまよりも20億人増えると予測されています。さまざま国がかかえる人口問題は、不平等や格差にもつながります。それぞれの説明文がどの国にあてはまるか、予想してみましょう。〈答えはつぎのページ〉

対応教科

国語

社会

算数

理科

生活

音楽

美術

家庭

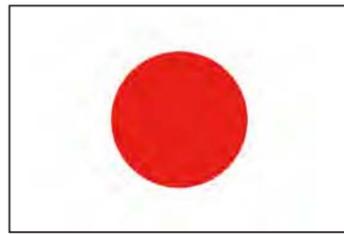
体育

道徳

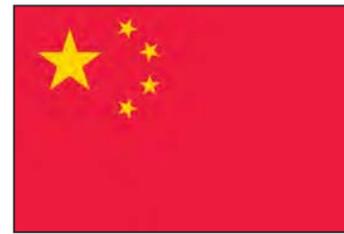
外国語

総合的な学習

日本
総人口: 1億2686万人



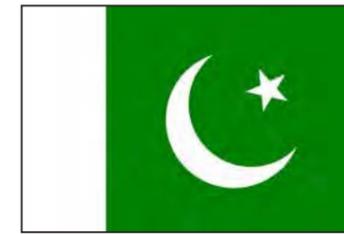
中国
総人口: 14億3378万人



インド
総人口: 13億6642万人



パキスタン
総人口: 2億1667万人



コンゴ民主共和国
総人口: 8407万人



バングラデシュ
総人口: 1億6365万人



毎年、日本の25倍以上にあたる約2500万人の子どもが生まれている。2027年には人口数が世界一になる予想だが、経済成長がいちじるしい都市部と農村地域の格差が拡大していくと懸念されている。

人口増加率は世界トップ。若者が多く人口の60%が25歳以下といわれている。貧困層の家庭では子どもは働き手とされ、人口の30%が読み書きができず、衛生的な水を確保することもむずかしい状況である。

急激な人口増加をおさえるために、1979年から2015年まで「一人っ子政策」が実施されていた。農村部ではふたりめが生まれても親が届けを出さず、戸籍をもたない子どもが増え、深刻な社会問題を引き起こした。

人口が急増している国のひとつだが、貧困層の出産が多く、10代で出産する女性の多くが地方出身者といわれている。飢餓や栄養不良、感染症などにより、5歳未満で亡くなる子どもも多い。

2019年の国内の出生数(子どもが生まれた数)は90万人を下回り、少子化、人口減が加速している。出生数の減少は、晩産化や結婚をしない人が増えていることが影響しているといわれている。

日本の約40%ほどせまい国土に、日本の総人口を上回る人びとが住んでいて、世界でいちばん人口密度が高いといわれている。近年、経済成長をとげているため、出稼ぎに来る移民の数も多い。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17



6つのRから環境にやさしい資源のつかい方を知ろう

のなかから、にあてはまる用語を選んでください。



かぎられた資源を次の世代でもつかえるように残すためには、ふだんからごみを減らし、資源の消費量をおさえ、つかえるものは再利用などしていく必要があります。左にならぶ、頭文字が「R」からはじまる6つの取り組みは、地球の資源を守るために、わたしたちが日ごろから実践できる行動です。それぞれどれにあてはまる用語か、予想してみましょう。〈答えはつぎのページ〉

- 対応教科
- 国語
- 社会
- 算数
- 理科
- 生活
- 音楽
- 美術
- 家庭
- 体育
- 道徳
- 外国語
- 総合的な学習

- R**educe リデュース
- R**efuse リフューズ
- R**epair リペア
- R**euse リユース
- R**ental レンタル
- R**ecycle リサイクル

赤ちゃんのあいだだけしかつかわないベビーカーは、借りてつかおう



必要なものがあるときに、買うのではなく「お店やほかの人から借りる」こと。つかう期間が過ぎられているものなどに活用できる。

うつわを落として割ってしまったけれど、金継ぎ*で修理をして、またつかえるようにしましょう



*日本に古くから伝わる伝統的な技術で、割れてしまったうつわを漆ではりあわせ、仕上げに金をほどこす。

壊れてしまったものを捨てずに、「修理をしながら長くつかい続ける」こと。洋服など、自分自身でも修理してつかうことができる。

おはしはおつけいたしますか？



買い物をするとき、わりばしやスプーンをもらわないようにしたり、過剰な包装をさけたりして、「ごみになるものをことわる」こと。

紙のカップとマグカップ、どちらにしますか？ マグカップをお願いします



つかい捨ての商品を選ばないようにするなど、「ごみになるものを減らすことで、ものをつくるとききの資源を減らす」こと。

缶やびん、新聞紙などは、「資源ごみ」の日に分別して出すよ



資源ごみとして回収したごみを一度原料にもどして、新しい製品をつくるための材料として役立つこと。

自分では着なくなったけれど、ネットで中古品として売ろう



自分ではつかわなくなったものを、中古品販売のアプリやフリーマーケットなどで人にゆずり、「ものがくり返すかわれるようにする」こと。